

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 4F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団 九州支部		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部に建てられた愛生会本館の4階と5階を利用して作られたグループホームは窓からは日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、さらには全方向市内を一望できる素晴らしい環境で、さらに1階には外山内科があり、受診の際は雨風にさらされる事なく通院することができ入居者様の負担軽減に繋がっている。また、訪問看護ステーションと連携し入居者様の体調管理を行っている。施設内においては、季節を肌で感じていただけるようにその季節の物を飾り付けをしている。また、散歩に出掛けたり、健康体操・嚙下体操・歌など毎日行い健康に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人吉市内中心部に建設された法人本館の1階が透析センター、2階が内科検診センター、3階が療養通所センターで、4、5階が2ユニットのグループホームとなっている。母体が医療法人であり階下の病院が内階段で繋がる為透析患者や医療依存が大きい利用者が入所しても受診がしやすいという強みがある。立地場所の周辺環境は、買い物先や理美容院がすぐ近くにあり、散歩先には困らない。近くには人吉城公園がありイベントも多く、夏には花火見物に家族も施設に訪れている。利用者の自立支援に力を入れている事を、入居の際に職員が家族へ説明を行っており、自立支援に前向きな施設です。雇用形態として正社員が雇用が殆どであり、福利厚生がしっかりしており研修や資格取得にも意欲が高い施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を見直し今年度は新しい理念を掲げ毎朝、4階・5階合同で朝礼を行う前に理念の復唱を行っている。復唱することで、再確認を行い、それを現場に活かす様に努めている。	年を経るごとに変化していく状況を踏まえて、理念もその時時に合わせて変更しており、現在は全員で作成した理念を毎朝朝礼で唱和している。	法人の理念と施設の理念、行動指針等がケアプランに連動されいかにされるような取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りの参加、ボランティア体験教室の受け入れを行い交流を図ったり、合同レクリエーションでは、歌や踊り、メイクアップ教室、華道、などボランティアの方々に来て頂いている。買い物も入居者様と一緒に近くのお店に出かけたり、近くの理美容室へ出かけている。	年1回は地域の中学生の職場見学等の受け入れをしている。花生けの講師のボランティアが来た際には、利用者が花を活けたりしている。近所の商店にも利用者を連れ出すなど交流を図っている。	もっと積極的に地域に出向き施設が地域の一員になることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で介護の相談等あれば相談に応じている。また、利用者家族・入居希望者などの介護の相談などにも対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの利用者様の状態報告や行事報告を行い、町内の方・市の担当者の方から改善などの意見があれば、それを現場に活かせるように努力している。町内会からは町内のイベントなども報告され、クリスマス会などを行い、地域の方との親睦を深めている。	会議の在り方で多種多様な意見が出るような仕組みを作りたいと管理者が思っている。民生委員から行事が長すぎる等の意見が出た際には改善したり、行政からインフルエンザへの取り組みに際しての意見が出たときにもきちんと対応されている。	施設と参加者が意見を活発に交換できるような会議の雰囲気作りに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者からインフルエンザやノロウイルス等の感染情報や介護保険情報等を得たり、また、電話や介護更新手続等で市役所へ行った時、色々と疑問点ある時は、相談をしている。	インフルエンザの対応方法等を市町村指導を受け実行したり、事業所運営に関わる加算等について、管理者が市の担当者から助言を受けに行ったりしている。市の集団指導で相談員の派遣がある事を知り管理者がケアに生かせる取り組みにつなげたいと申し込んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、マニュアルを誰でも閲覧できるようにしている。研修会も行い職員全員に学習する機会を設けている。朝礼・終礼時には定期的に申し送りを行って常に職員が意識するように心掛けている。大声・不穏・徘徊などある入居者様には、見守りや寄り添い声掛けを行い落ち着いて頂く様に対応している。	身体拘束のマニュアルが1年前に見直し作成、常に職員が閲覧できるようにしている。そのマニュアルに添い身体拘束委員会を立ち上げ毎月全員で研修を1回、会議を2回のサイクルで実施している。参加できない人には個別研修や会議録の閲覧で周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても、身体拘束同様にマニュアルの閲覧・研修会での学習する機会などを設け実践している。常に職員が意識するように朝礼・終礼時には定期的に申し送りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も成年後見制度も利用者様が実際にご利用されているので、制度に関し理解をし、取り組んでいる。又、権利擁護の研修等も積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時から本人様・ご家族様に施設について介護方法等について疑問点などを説明を行い不安なく契約できるように取り組み契約時にも再度、十分な説明を行い本人様や家族様が理解・納得していただいた後に契約を行っている。また、介護保険が改正されて利用料等に変更があった場合にも、説明を行い、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し誰でも意見が述べられるようにしている。また、来訪時・サービス担当者会議等で家族様と意見交換を行っているが、運営に関しての意見や要望は聞かれていない	意見箱は設置されているが、なかなか意見が入れられることは無い。運営に関しては、利用者や家族からの意見が出たことは無い。	家族が遠距離という方が今後も増えて行くと思われますので、遠距離家族の意見の吸い上げ方法の工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開き運営について意見等を聞いている。また、朝礼・終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしているし、改善すべき点は、話し合った上で改善し、取り組んでいる。	毎月最終火曜日に身体拘束の研修会を行いその後には職員会議を開催している。有休のとり方が話し合われたり、職員から要望のあった、食器乾燥機、電子レンジ、車いす2台、掃除機等が管理者を通して購入されたりと、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、福利厚生、など職員が働きやすいように努めていただいている。又、希望休の要望に出来るだけ応えて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	研修案内を案内板へ掲示・申し送りノートを活用して紹介している。又、必要に応じて個別に参加を促すこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなどを行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様の声に耳を傾け、表情・会話等の中からも本人様の思いを汲み取ることが出来るようにコミュニケーション作りを行い安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、契約時においても、出来る限り多くの時間を使いご家族様からの情報や要望等を聞き、少しでも対応できるように努めている。面会時にご家族様と話す時間を設け信頼関係が築ける様に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様が不安に思う事・必要としている事を汲み取り最も本人様に良い方法を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ情報の共有を行いながら本人様の残存能力を見極め、出来ることはお願いしている(洗濯物たたみや台拭き等)。また身体介助もすべて介助は行わず、出来る所はしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診等、家族様に出来ることは依頼をしている。また、利用者様の相談も必ずご家族の意向を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への来訪はいつでも受け付けている。親族・友人・近所の方が入居様を訪ねて来られる。また、市内の祭りなどに出掛けられる様に支援している。	利便性から主治医は階下の病院の医師に変更されるケースが多い。近所の馴染みの美容室にお茶のみに行ったり、近所の方の訪問があったりと、関係継続がなされている。本人の要望があれば墓参りや娘に会いに行くなどの支援もしている。	利用者によっては、外出頻度が少ないように感じられましたので出来る限り地域に出かけるような工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	被害妄想・暴言を吐かれる方などおられるが、その方が落ち着いておられる時は、皆様と一緒にレクリエーション・外出など参加して頂いている。不穏が強い時はスタッフが間に入りトラブルが無い様に心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するときは、入院による退居の場合が多いが、退去されたご家族様で近くに理容店を運営されている為、定期的に利用させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様から思いや要望に耳を傾け一人ひとりの意向の把握に努めている。又、意思疎通がむずかしい入居者様には生活歴などを参考にご家族様・職員と話しを行い本人様にとってより良い生活が出来る環境作りに努めている。	入居前に利用者の家族に見学をお願いし、その際に管理者が面談し、希望を聞き取りしている。入所後1ヶ月には見直しも行っている。病院や施設からの入居者が多いので、そこからの情報を得ることが多い。	在宅生活の延長線上なので、積極的に在宅の状況等、多方面からの意見聞き取りができることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様より得られることは、少ないように思われる。家族様からの情報が主であるが、生活歴などは、利用者様と話をするときの「話題」に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせて、ゆとりある時間を作るように心掛けている。又、毎日のバイタル測定・身体観察・状態に応じた体重測定。常に観察を行い小さな変化も見逃さないように全員で情報の共有を行い朝礼・終礼時には申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれ意見や希望など反映した計画を作成している。	利用者にそれぞれ担当職員を1名配置してケアの内容に関してのチェック表を用い記録しておりケアプランの内容が活かされるようにしている。記録を見て3か月ごとに管理者が家族や利用者や担当職員等から意見を聞き、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりに担当者を割り当て担当者を中心に管理者・計画作成者・介護職員で日々の支援についての話し合いを行い実践している。又、ケース記録や申し送りを利用し情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冬には乾燥肌になるためにクリームを塗布したり、排便がない人には運動・腹部マッサージしたり、その時その時の状態に合わせて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや施設全体での夏祭り・文化祭などに参加したり、ボランティアの方々に施設に来ていただき、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人様が入居前にかかっておられた医療機関との連携を行いながら支援する様になっているが、現状は同法人の医療機関へ変更をされている。ただ、眼科や歯科等専門医院の受診については、できるだけ家族に対応を依頼している。	現在全ての利用者かかりつけ医が階下の病院の医師に変更されていることが強みとなっているとも言える。他の精神科や歯科医院などの受診には基本、施設職員が同乗し家族や受付の方に病状説明している。家族のみの受診の方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状態に変化がある時は訪問看護へ連絡を入れ訪問して頂いたり、電話での指示で対応している。また、週1回の訪問では、入居者様の全員の状態をチェックされその都度アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟のソーシャルワーカーと連絡を密にし入院した場合の入居者様の状態把握に努めている。また、外来看護師や病棟看護師とも連携を密にし情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターの方より家族へ病状の説明や今後についての話し合いが、介護スタッフも含め行われている。それに基づき計画の見直しを行い、入居者様が一番良い状態で過ごしていただけるように支援している。	医療連携体制加算の同意書の中に、看取りの項目を入れている。しかし基本的には看取りはしない方針であるが、看取りギリギリまでの対応は出来る。緊急時の意志確認書があり延命に関する項目の確認が行われている。	利用者や家族への説明の際に看取りの方針をきちんと伝えられるような工夫に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回建物全体で行い。日々に業務のなかでは毎日、夜勤者が業務に入る前に火災のシュミレーションを行い、放送設備や通報設備の再確認・訓練を行っている。水害や地震訓練も建物全体で行っている。また、災害時に必要になる物品(食料、飲料水、必要な備品)も確保している。	法人の災害マニュアルがあり、それに沿い施設独自でマニュアルを作成し職員に周知し必要な分は壁に貼っている。また、火災に関しては全館に民間のシステムが導入されている。火災以外の災害には法人での合同訓練が行われ、自家発電訓練もっており、食料備蓄も3日分はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに対しては、朝礼・終礼時・申し送りノートで常に注意を促し職員の意識が薄れない様に気をつけている。トイレや入浴時などもドアを閉める・バスタオルをかけるなどプライバシーを確保できるように指導し取り組んでいる。	言葉使いに関しては、管理者から常に注意を促し職員の意識が薄れない様に気をつけている。トイレや入浴時などもドアを閉める・バスタオルをかけるなどプライバシーを確保できるように指導し取り組んでいる。使用済みのパットを新聞などでくるんで見えないような工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動・トイレ・入浴など必ず本人様に声掛けし同意を得てから行動に移している。意思疎通がむずかしい方でも必ず声掛けを行い行動に移している。訴えがある時は、側に寄り添い安心して頂けるように話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にすることに心掛けているが、スタッフの人数・入居者様の重度化を考えると毎日、一人ひとりのペースを支援するのは、厳しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきた時は、美美容室へ行ったり、施設内においては、出来るだけ同じ服にならない様に心がけている。また毎週、整容日を設け爪切りや耳かき等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、介助する方が多くなり食事の準備は全く入居者様とは行っておらず、手伝っていただくのは、台拭き、茶碗洗いくらいである。	利用者は、台拭き、茶碗洗い等を行っている。食事の際には、音楽を掛けている。食事は外部からのレトルトであるが月1回は、業者と各施設代表で内容に関して話し合いを行って改善を図っている。2ヶ月1回おやつ作りの料理教室をしたりする。毎朝ヤクルトの持ち込み飲用者もいる。	時には外食や弁当、食事場所の変更等「たのしい食事」になるような支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回入居者様ごとに食事量の記録を行い、その方に合った食事形態で提供し栄養バランスが偏らないように気をつけている。水分量については、毎食後とおやつ時にチェックシートにて管理し、少ないようであれば飲んで頂くように促している。また、管理栄養士と常に情報を共有し栄養補助食品の提供や糖尿病や腎不全などの病気の状態に合わせて調理の内容も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行って、夕食後は、洗った後、洗浄剤を入れて洗浄している。口腔ケアは、ご自分で出来る人には、お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導や訴え等あれば随時対応を行っている。現在は利用者様の重度化により座位が厳しい方もおられるため、居室のベット上でプライバシーを確保して支援している。	排泄チェック表を活用し、職員で話し合いケア方法を変えて便失禁や汚染回数が少なくなっている。病院から退院後のオムツ使用者がパット使用のみになっていたりし改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量チェック・運動など本人様に出る内容を訪問看護・職員と話し合い行っている。また、トイレに行く前は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入居者様のADLが低下し、入浴もスタッフ1人では、対応が困難になり、時間や曜日を決めての入浴となる。その中で、入浴時はゆっくりとお湯につかって頂ける様あまり急かせない様に気を付けている。	個室であり、リフトも設置されている。拘りのシャンプー等の持ち込みがあり、1日おきの入浴日で、入浴時間は利用者に合わせている。1対1での介助で窓から景色が見える良い環境で、長湯の人にも合わせている。	法人には、隣接した温泉設備もあるので希望者には温泉入浴もできるような対応を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、車椅子での座位保持が長時間困難な人の場合、居室にて休んでいただいている。またその他の入居者様には、足を拳上し、ゆっくりした感じで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、利用者様の状態により、処方が変わるので、前回とのチェックを行い、薬の変更がある場合は、服薬チェックリストへの追加・変更を行い、また服薬時は間違えがないように、二人のスタッフが確認して服薬を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・清掃・近所への外出・レクリエーション・誕生会・華道・メイクアップなどの提供、おやつのお茶の他にも、紅茶やココア、ジュースなどの提供を行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じれるよう近所の散歩へ出かけている。また、散髪や買い物等あれば一緒に出掛けていて、入居者様も大変喜ばれている。	近所の人吉城に散歩にしている。また大型店に買い物に行くなど月平均2回程度外出する。利用者次第では美容院に数日おきに出かけたり近所の娘の所に逢いに行くなどの支援をしている。	今後更に、外部との交流が、日常でも行われるような取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金の管理が出来ない為、施設管理となっている。散歩・祭りの時、預かり金を1,000円程度、付き添いの職員へ預け欲しい物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる入居者様には直接家族と話せるように支援している。また、話すことが出来ない方もおられる為、毎月お便りを家族様に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ということでは、その時期にあった飾り付けを行っている。又、お花の先生に来ていただき入居者様の前で作られた作品を飾らせていただいている。	食堂の横には畳間があり、そこに炬燵が設置されている。台所は家庭用で小さい。食堂のテーブルの周りに利用者が困んでテレビを見ている。病棟を改修してある為、防火扉等があり、家庭的な雰囲気を出すために折り紙を張るなどの努力をしている。ベランダにグリーンカーテンの植物を植えたりと、工夫が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲良く話などされています。又、1人になりたいときは、居室へ行かれて過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今までの環境の雰囲気でも過ごせる様に、入居時に本人様にとって馴染みの物を持ってきて頂けるように本人様・ご家族様に話しをしている。但し、安全面を確保出来ない場合は、家具など置かないケースがよい時もある。	管理者から、馴染みの物を持ち込まれるよう家族に説明をしている。実際に筆筒の持ち込み等やお気に入りの帽子が4つほど持ち込まれたり、家族写真が飾られたりしている。亀や金魚が自宅から持ち込まれ、食堂に飼われ入居者を和ませている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて、歩きやすいようにしている。又トイレ等場所が分かるように案内表示を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成30年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団 九州支部		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部に建てられた愛生会本館の4階と5階を利用して作られたグループホームは窓からは日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、さらには全方向市内を一望できる素晴らしい環境で、さらに1階には外山内科があり、受診の際は雨風にさらされる事なく通院することができ入居者様の負担軽減に繋がっている。また、訪問看護ステーションと連携し入居者様の体調管理を行っている。施設内においては、季節を肌で感じていただけるようにその季節の物を飾り付けをしている。また、散歩に出掛けたり、健康体操・嚙下体操・歌など毎日行い健康に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4階・5階合同で朝礼を行い、申し送り前に理念の唱和を行っている。全員で復唱・再確認を行い、現場で活かせる様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会開催時や合同レクリエーションでは、歌や踊り、メイクアップ教室、華道などボランティアの方々に来て頂いている。ボランティア体験教室の受け入れを行い交流を図ったり、近く美容室へ出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族・入居希望者などの相談にも対応している。又、運営推進会議で介護の相談にも応じている。また、ボランティア体験教室の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの利用者様の状況報告や行事報告を行い、町内の方・市の担当者の方から改善などの意見があれば、それを現場に活かせるように努力している。町内のイベントなども報告され、クリスマス会などを行い、地域の方と関係を築ける様努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者から感染状況(インフルエンザやノロウイルス等)や介護保険情報等を得たり、また、利用者様の介護更新手続等で市役所へ行った時、問題があれば、色々と相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場で勉強会や研修会も行い全員で再認識する機会を設けている。朝終礼時に申し送りを行って常に職員が意識するように心掛けている。不穏・徘徊などある入居者様には、見守りや寄り添い声掛けを行い落ち着いて頂く様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、マニュアルの閲覧・研修会での学習する機会などを設け実践している。常に職員が意識するように朝礼・終礼時には定期的に申し送りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も成年後見制度を実際利用されていた利用者様に関わった職員もおり、内部の研修で勉強を行ったり外部で開催される研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時から本人様・ご家族様に設備や介護方法等について疑問点や不明点が無い様に説明を行い不安なく契約出来る様に取り組んでいる。契約時にも再度、十分な説明を行い本人様や家族様が理解・納得していただいた後に契約を行っている。また、介護保険が改正されて利用料等に変更があった場合にも、説明を行い、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関前に設置し掲示板等で案内している。又、来訪時・サービス担当者会議等で意見や要望を聞く機会はあるが運営に関しての意見や要望は聞かれていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開き運営について意見等を聞いている。朝礼・終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしているし、改善すべき点は、話し合った上で改善し、取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、福利厚生、など職員が働きやすいように努めていただいている。又、希望休の要望に出来るだけ応えて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	事業所内に研修案内の貼り出しや申し送りノートを活用して紹介している。又、必要に応じて個別に参加を促すこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなどを行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様の声に耳を傾け、表情・会話等の中からも本人様の思いを汲み取ることが出来るよう様にコミュニケーション作りを行い安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、契約時においても、出来る限り多くの時間を使いご家族様からの情報や要望等を聞き、少しでも対応できるように努め本人様の些細な変化でもご家族様に連絡を行って情報交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様が不安に思う事・必要としている事を汲み取り最も本人様に良い方法を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の残存能力を活かし洗濯物たたみや洗濯物干し、食後の下膳、廊下の掃除、台拭き等行なって頂いている。歩行困難な方もリビングに洗濯物を干す準備を行い、車椅子のまま干せる環境を提供し共同生活の関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やオムツの購入、家族様に出来ることは依頼をしている。本人様の些細な事でも必ずご家族様へ相談し、面会時には日頃の様子や、要望等、相談しご家族様の意向を確認し話し合いながら支援方法を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への来訪はいつでも受け付けている。御友人や近所の方が入居様を訪ねて来られている。なじみの美容室がある入居様は散髪へ送迎し以前と変わらない関係性を保たれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操・散歩など活動の中で、入居者様同士の交流に、職員が間に入って関わり合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するときは、殆ど死亡退居の場合が多いが、退去されたご家族様で近くに理容店を経営されている為、定期的に利用させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様から思いや要望に耳を傾け一人ひとりの意向の把握に努めている。又、意思疎通がむずかしい入居者様には生活歴などを参考にご家族様・職員と話しを行い本人様にとってより良い生活が出来る環境作りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様より得られることは、少ないように思われる。家族様からの情報が主であるが、生活歴などは、利用者様と話をするときの「話題」に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆとりある時間を作り一人ひとりのペースに合わせた時間を作るように心掛けている。又、毎日のバイタル測定・身体観察を行い小さな変化も見逃さないように全員で情報の共有を行い朝礼・終礼時には申し送りを行っている。変化があれば訪問看護へ連絡を入れ指示を仰ぐ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれ意見や希望など反映した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりに担当者を割り当て担当者を中心に管理者・計画作成者・介護職員で日々の支援についての話し合いを行い実践している。又、ケース記録や申し送りを利用し情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冬には乾燥肌になり易い為、保湿クリームを塗布したり、排便がない人には運動・マモリス・腹部マッサージしたり、その時の状態に合わせて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや施設全体での夏祭り・文化祭などの年間行事に参加したり、ボランティアの方々に施設に来ていただき、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人様が入居前にかかっておられた医療機関との連携を行いながら支援する様にしているが、現状は同法人の医療機関へ変更をされている。ただ、眼科や歯科等専門医院の受診については、できるだけ家族様にも対応を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の状態に変化がある時は訪問看護へ連絡を入れ訪問して頂いたり、電話での指示で対応している。また、週1回の訪問では、入居者様の全員の状態を見ていただいでいて、毎日訪問看護ノートへ一日の様子を記録して訪問看護へ提出し、情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎週1回の入退院調整会議にて病院との情報交換を行ったり、病棟のソーシャルワーカーと連絡を密にし入院した場合の入居者様の状態把握に努めている。また、外来看護師や病棟看護師とも連携を密にし情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターの方より家族様へ病状の説明や今後についての話し合いが、介護スタッフも含め行われている。それに基づき計画の見直しを行い、入居者様が一番良い状態で過ごしていただけるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間はやむを得ず限られたスタッフで全員を見なければならぬ為対応が困難。夜勤に入る時に、火災のシュミレーションを行い、放送設備や通報設備の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに対しては、朝礼・終礼時・申し送りノートで常に注意を促し職員の意識が薄れない様に気をつけている。トイレや入浴時などもドアを閉める・バスタオルをかけるなどプライバシーを確保できるように指導し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動・トイレ・入浴など必ず本人様に声掛けし同意を得てから行動に移している。意思疎通がむずかしい方でも必ず声掛けを行い行動に移している。訴えがある時は、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にすることに心掛けているが、スタッフの人数を考えると毎日、一人ひとりの希望やペースを支援するのは、厳しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきた時は、美美容室を運営されているご家族様がボランティアへ来られリビングにて散髪されている。入居者様には好みの服と一緒に選り着衣して頂いている。毎週の整容日に爪切りを行なっているが入浴後など毎回確認しておりその都度整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在歩行可能で意欲があらわれる2名の方が下膳や台拭き、茶碗洗い等手伝われている。類工困難な方はご自分で使用されるテーブルの手の届く範囲を拭いて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士のもとで、メニューを作成し、提供している。水分量については、毎食後とおやつ時にチェックシートにて管理し、少ないようであれば飲んで頂くように促している。また、管理栄養士と常に情報を共有し栄養補助食品の提供や糖尿病や腎不全などの病気の状態に合わせて調理の内容も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っていて、夕食摂取後は義歯洗った後、洗浄剤を入れて洗浄している。口腔ケアは、ご自分で出来る人には、お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行なっているが本人様の排尿感覚を見極め随時トイレ誘導を行っている。また訴え等あれば都度対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の把握・水分の摂取量チェック・運動など個々に応じた内容を訪問看護や職員と話し合い行っている。また、トイレ誘導時は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入居者様のADLが低下し、入浴もスタッフ1人では、対応が困難になり、時間や曜日を決めての入浴となる。その中で、入浴時はゆっくりとお湯につかって頂ける様あまり急かせない様に気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後などに、車椅子での座位保持が長時間困難な人の場合、居室にて休んで頂いている。またその他の入居者様には、足を拳上し、ゆっくりした感じで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、利用者様の状態により、処方が変わるので、前回とのチェックを行い、薬の変更がある場合は、服薬チェックリストへの追加・変更を行い、また服薬時は間違えないように、二人のスタッフが確認をして服薬を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・清掃・近所への外出・レクリエーション・誕生会・華道・メイクアップなどの提供、おやつのお茶の他にも、紅茶やココア、ジュースなどの提供を行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じれるよう近所の散歩へ出かけた。定期的にドライブも行っている。また、散髪や買い物等あれば一緒に出掛けていて、入居者様も大変喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金の管理が出来ない為、施設管理となっている。散歩・祭りの時、預かり金を1,000円程度、付き添いの職員へ預け欲しい物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は引継ぎをしているが、話すことが出来ない方もおられる為、毎月お便りを家族様に送っている。自ら連絡をとりたいと要望をされる入居者様に関してはすぐに取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を表すという事では、その時期にあった飾り付けを行っている。又、華道の先生に来て頂き(月1回程度)生け花を行い、その後はいつでも見て頂けるよう、過ごされることの多いリビングに飾らせていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲良く話などされている。又、静かに過ごされたい時は居室へ行かれて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今までの環境の雰囲気でも過ごせる様に、入居時に本人様にとって馴染みの物を持ってきて頂けるように本人様・ご家族様に話しをしている。但し、安全面を確保出来ない場合は、家具など置かないケースがよい時もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて、歩きやすいようにしている。又トイレ等場所が分かるように利用者様の目線に合わせて案内表示を付けている。		